東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2008 年 1 月 11 日

礼儀作法

親愛なるムスリムの皆様。イスラーム教徒が腰をおろす時、立つ時、食べる時、飲む時、話す時、笑う時に何に注意するべきかということを預言者ムハンマドは私たちに教えて下さいました。今日はその勧められた光を通し、人間関係における礼儀の決まりのうちいくつかを思い起こしてみましょう。

礼儀作法に注意を払うムスリムは、訪問した家で「どちらですか？」と訊ねられた時には、「私です。」と答えるのではなく、「私はアリです。」「私はハサンです。」という形で名前を告げて答えるべきです。ドアが開けられた時には、家の内部を見てしまわないように、右側もしくは左側に寄るべきです。もしドアを三回ノックして、あるいは鐘をならして返事が得られなかった場合は、それ以上しつこくすることなく戻るべきです。中に入れてもらった場合は、「ビスミッラー」と唱えて入らなければなりません。そして後ろにも聞こえる声で挨拶を行なうべきです。まず右の、それから左の靴を脱ぐことがより適切です。

訪問を行っている時は足を組んで座ってはいけません。座り方にも注意を払うべきです。また必要のないことを話して、訪問の時間を過度に長くしてはいけません。

食卓に招かれた時は、食事は右手で行ないます。水は右手で持って飲みます。少しずつ食べるように注意を払うべきです。音を立てて食べたり、口にものが入っているのにしゃべったりしてはいけません。過度に食べ過ぎてはいけません。胃の三分の一を食事に、三分の一を飲み物に、三分の一は空気の為にからにしていくべきなのです。食べられる以上の量をよそってもらってはいけません。それによって食べ物がむだになることを防ぐべきなのです。家の人は、客が座る前に腰をおろしてはいけません。また食事をあまり多く勧めすぎるべきではありません。食事の後で手を洗い、口をすすぎ、可能なら歯を磨くことがより適切です。誠実なムスリムは、もし話すなら意義のあることを話すべきで、そうでないなら黙るよう注意を払うべきです。誰かを罵倒したり呪ったりしてはいけません。人を傷つけたり、本人がいないところで欠点を述べ立てたりしてはいけません。誰かをからかったりしてはいけません。もし、三人の人が一箇所に座っているのなら、三番目の人を一人にして二人だけで話をするべきではありません。このような状況ではその人が傷つき悲しむということを認識していなければなりません。

礼儀正しい信者は、人々と笑顔で、心地よい言葉を用いて話します。人に微笑みかけ、心地よい言葉を話すことはそれ自体が善行であることを知っているのです。スラングのような言葉を使わないように注意します。何かを買ったり、売ったり、借金を払ったりする時は、寛容で相手にとって容易であるよう努めます。ムスリムの兄弟と会った時は挨拶を行ないます。小さい者が大きい者へ、数が少ない者が多い者へ、乗り物に乗っている人が歩いている人へ、歩いている人が座っている人に挨拶を行なうのは適切なことです。

善を施した人には出来るだけの力を持って善を返します。力が不十分でなければドゥアーや感謝を行ないます。人に感謝をすることを知らない人はアッラーに感謝しなかったと見なされることを忘れずにいます。兄弟に腹を立てたとしても、三日以上その状態を続けることはありません。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。私たちはこういった礼儀作法を、「私の愛する預言者さまもこのように行なっておられた。私がこのように行なうことも望んでおられたのだ。」という意思で行なうべきです。子供たちをも、同じ考えを持つように育てるべきです。崇高なるアッラーが、私たち皆を、私たちの道案内をしてくださるお方のあとをたどって生きていくことができるようにしてくださいますように。